



平成 19 年 12 月 5 日

各 位

神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目 5 番 14 号
株式会社メディネット
代表取締役 CEO 木村佳司
(コード番号:2370 東証マザーズ)
問い合わせ先 経営企画部長 鈴木邦彦
電話番号 045(478)0041(代表)

メディネット、東大病院と膵がんに対する新たな治療法の確立に向けて

化学療法とガンマ・デルタ T 細胞療法との併用による共同臨床研究を開始

株式会社メディネットは、平成 19 年 12 月 5 日、東京大学医学部附属病院(東京都文京区、病院長: 武谷 雄二、以下「東大病院」)と共同で、膵がんを対象とした臨床研究を開始しましたのでお知らせします。本共同臨床研究は、膵頭部がん治癒切除後の補助療法として、化学療法剤であるゲムシタビンにガンマ・デルタ T 細胞療法ⁱを併用した場合の安全性と有効性を評価検討することを目的としております。

本共同臨床研究により、本併用療法の安全性、有効性が確認されて実地医療として提供されることになれば、膵がん術後の再発防止及び予後の改善に寄与するものと期待しております。

平成 18 年の国内における膵がんによる死亡者数は 23,000 人を超え、がんによる死亡者の 7.1%を占めて肺がん、胃がん、大腸がん、肝がんに次いで第 5 位ⁱⁱとなっています。また、膵がんは 5 年生存率が約 5%と予後が極めて不良である上、手術が行なわれても血行性転移により早期に再発・転移する症例が多く、手術後の 5 年生存率は 10~20%とされています。現在、手術後に残存するがん病変を除去し、血行性転移を抑制する目的で、術後補助療法にゲムシタビンを用いた臨床研究が試みられ、有意な再発抑制効果を示すデータも報告されているものの満足する結果は得られておらず、今後の更なる再発予防、予後の改善のためにゲムシタビンを含む新たな併用療法の確立が求められています。

本共同臨床研究では、ゲムシタビンによる膵がん手術後補助療法にガンマ・デルタ T 細胞療法を併用した場合の安全性と有効性を評価検討します。化学療法剤であるゲムシタビンとガンマ・デルタ T 細胞療法という異なる作用機序の 2 つの治療法を組み合わせることで、局所再発及び血行性転移を制御する新たな治療法の確立を目指します。尚、ゲムシタビンは、独自での殺細胞作用を有すると同時に、がん細胞表面にガンマ・デルタ T 細胞が認識するストレス蛋白(MIC A/B 等)を発現させ、ガンマ・デルタ T 細胞による腫瘍の認識と抗腫瘍活性を増強することが考えられ、ゲムシタビンとガンマ・デルタ T 細胞療法の併用療法による治療効果が期待されます。

本共同臨床研究は、東大病院 肝胆膵外科 國土 典宏 教授を研究責任者に、東京大学大学院

医学系研究科 免疫細胞治療学(メディネット)講座ⁱⁱⁱ 垣見 和宏 客員准教授をガンマ・デルタT細胞の培養・検査及び免疫学的検査責任者として実施され、メディネットは同社が保有する技術、ノウハウ、各種基礎データの提供及び、データ解析等の役割を担っています。

尚、本件の業績に与える影響は軽微であります。

以 上

本件に関するお問い合わせ:

株式会社メディネット 広報グループ
神奈川県横浜市港北区新横浜 2-5-14
045-478-0041(代表)

i ガンマ・デルタ T 細胞療法

末梢血液中に含まれるガンマ・デルタ型 T 細胞を、がんの溶骨性骨転移などで使用されるアミノビスフォスフォネート製剤とIL-2の組み合わせによって選択的に活性化、増殖させて患者自身の体内に戻す治療法。アルファ・ベータ T 細胞療法と比較して、より活性化されたガンマ・デルタ型 T 細胞が数多くを占める。本年 10 月、メディネットが新たな治療技術として、ガンマ・デルタ T 細胞療法に係る技術の提供を開始。

ii 「平成 18 年人口動態調査 悪性新生物の主な部位別にみた性別死亡数の年次推移」(厚生労働省)

iii 免疫細胞治療学(メディネット)講座

メディネットの寄附により、設置された寄附講座。基礎研究、臨床研究、さらには治療まで一貫して実施し、東大内の他の寄附講座、診療科等をはじめ、外部の医療機関、研究機関等と共同で、各種がんを対象とした免疫細胞療法の研究を行う。